

洪水 前線/台風、ゲリラ豪雨に注意しよう！

洪水が起こる原因は？

前線の停滞や台風の襲来によって数時間にわたり大量の雨が降る集中豪雨、一時的に激しい雨が降るゲリラ豪雨に注意が必要です。

1. 前線の停滞

日本付近では、6月頃に梅雨前線、9月頃に秋雨前線が停滞して、雨が降り続けます。

2. 台風の接近

台風は暴風と大雨に注意が必要です。台風の規模によっては、広範囲にわたって甚大な被害をもたらします。

3. ゲリラ豪雨

大気の状態が不安定なとき、積乱雲が発達し、局地的に強い雨が降ります。場合によっては線状降水帯の発生により長期化し、甚大な被害をもたらします。

- 真っ黒い雲が近づいてくる。
- 急に冷たい風が吹いてくる。
- 雷の音が聞こえてくる。

ハザードマップで自分の居場所の危険を知ろう

P.7 ~ P.16



川に近づかない！

ライブカメラの活用

大雨・洪水時の河川は水位が短時間で急上昇するため、気づいてからでは逃げられません。大変危険なので、絶対に近づかないでください。

河川の状況はライブカメラ画像で確認しましょう。



適切な避難方法を

洪水時の避難方法

- ①浸水しない地域の親戚・知人宅へ避難
- ②近くの避難所へ避難
- ③垂直避難(高いところへの避難)



垂直避難

浸水がすでに始まっている場合は今いる建物内で垂直避難

浸水が始まっているときに外へ移動するのは大変危険です。
少しでも高い場所へ避難してください。



大雨時の災害リスクを知る

大雨時に想定される流域での災害リスクを知っておくことは重要です。また、水位情報により河川の状況を知ることができます。



大雨時は土砂災害にも注意！

3つの土砂災害

1 急傾斜地の崩壊 (かけ崩れ)

傾斜した土地が崩壊する自然現象。突然崩れ落ちるため、ひとたび人家を襲うと逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高くなっています。



土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン)

土砂災害警戒区域 (イエローゾーン)

土砂災害が発生した場合に、建物が壊れて命や身体に著しい危害が生じるおそれのある区域

土砂災害が発生した場合に、命や身体に危害が生じるおそれのある区域

2 土石流

山肌が崩落して生じる土石などや、渓流の土石などが一体となって流下する自然現象。その流れの速さは、時速 20km ~ 40km で、一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン)

土砂災害警戒区域 (イエローゾーン)

3 地すべり

地面は何層もの地層が積み重なってできていますが、大雨が降り続くと地下に水がしみこみ、水を通しにくい粘土層の上に地下水がたまります。この地下水の力に持ち上げられて、粘土層を境に上の地面がゆっくりとすべり落ちます。



詳しくは「別府市防災マップ」をご確認ください。



避難の注意

用水路・マンホールは危険！

浸水するとマンホールや用水路が見えにくくなります。
また、水が吹き出す場合があり大変危険です。



避難の時は足元注意！

浸水している場所を歩くときには、棒などで足元をよく確認し、用水路や側溝などに注意して避難しましょう。水の深さが膝を超えると歩行が難しくなります。

(目安)
大人男性 … 水位 70cm
大人女性 … 水位 50cm
子供 …… 水位 20cm

アンダーパスに注意しよう！

アンダーパスとは、交差する鉄道や道路などの下を通過するため、周辺の地面よりも低くなっている道路のことです。地形的に雨水が集中しやすい構造となっています。大雨、洪水時には自動車での進入はやめましょう。

